〔駒沢女子短期大学　研究紀要　第40号　P.61～67　2007〕

英語の語形成の短縮傾向に関する展望

須　永　紫乃生

A New Perspective on Shortening in Recent Word Formation of English

Shinobu SUNAGA

Abstract

Swift changes and quick movements lead people to make speedy communications. Short messages and swift responses seem to be a trend not only in the business world but also in everyday life. Many people may prefer shorter words and messages to express their ideas and emotions to each other. Such examples are found in speech and writings. Doctors or scientists or other professionals take shortened technical terms (for example：PTSD, NEET, Globish). Young boys and girls exchange text messages (＝TM). I will explain about shortening in new English words, or in other words forming shortened words in the English-speaking world. My hypothesis for the cause and mechanism in shorter word formation in English is "encoding" of things and words in easier or more friendly style. First, I take up the shortening patterns of English new words. Second, I illustrate some of the shortened words classified by domains or fields of human activities. Then, I explain how the mechanism in formation process works and clarify linguistic characteristics.

key words：acronym, blending, clipping, derivation, encoding, initialism, shortening, TM, X-word

1．はじめに

20世紀以降、科学の発達とその産物がもたらした簡便さとにより、時間的、物質的余裕ができ、社会生活は豊かになった。さらにより詳細に分かれ、またより連携して複合化する専門分野の研究開発はより精密・詳細となり、新現象、新発見、新製品につける名称、すなわち新語は、すべての要素を表現したものでは冗長で、話し言葉でも書き言葉でも扱いにくいものとなる。そこで、簡約し、短縮する必要が生じた。

短縮語は専門家の間の通用語にとどまらない。英語メディアでは、新製品、新現象の紹介欄や特集記事で専門家の意見を掲載する。スペースの制限から文の短縮も望まれ、短縮された語彙を広める助けをする。

本来、言葉は言語のコード化された（encoded）産物である。コンピューターの発明以後、インターネットの普及に伴い、情報の交換はますます加速化する。時間の節約はコード化（encoding）を促進した。これが新語の短縮傾向の要因であろうと推察する。

Stephen Gramley（2001．注１）によれば、英語への最近の追加語のうち、派生と複合による語は54.9パーセント、転換が19.6パーセント、短縮によるものは18パーセントである。しかし、本論では短縮傾向を音韻と字数の節約（economy）の観点から概観するため、語形成の型21種（須永．1982．注２）の中から、頭字語、短縮語のほか、派生や複合の中から短縮とみなされるもの――たとえば、連結形による派生や、短

縮複合、混交――を含めて扱う。

本稿では、第一に、英語の語形成で扱う短縮方法を実例とともに示し、次いで、どのような分野で生産性が高いか、科学研究・学術研究、医学・薬学・病理学、政治・経済現象、社会・文化現象、等の実例を挙げる。その後、言語学的視点からの考察、およびIT社会の影響を述べる。

2．新語・時事語の短縮・省略による造語法及びその形態

以下に、本研究で短縮傾向とみなす新語・時事語の造語法とその実例を提示する。

①acronym　LASIK (*L*aser-*A*ssisted in *Si*tu *K*eratomileusis), noc (non-official cover 非公式諜報員)

②initialism　CGI (*c*omputer *g*raphics *i*maging), PTSD (post-traumatic stress disorder), C-PTSD (Complex Post-Traumatic Stress Disorder)

③clipping　e-site ［esite］ (*e*(lectronic)(mail)＋site), D-word (*D*(epression)＋word), Wi-Fi (*Wi*(reless)＋*Fi*(delity))

④blending　Birdzilla (Bir*d*＋go*d*zilla), BusHitler(Bus*h*＋*H*itler), freakonomics (freak＋economics), EUtopia (EURO＋utopia)

⑤derivation：

with Prefix/Prepositive combining form：biomass (*bio*-＋mass), Euro-sclerosis (*Euro*-＋sclerosis)

with Suffix/Postpositive combining form：chatterbot (chatter＋(ro)*bot*), low - tech (low＋*tech*(nology)), chick-lit (chick(en)＋*lit*(erature))

⑥text message (Tex-Mex)　txtbks (textbooks)/AFAIK (as far as I know)/BTW (by the way)

米国、英国、カナダの活字メディア、映像メディアから取材して編纂した*Acronyms, Initialisms & Abbreviations Dictionary* (*AIAD*. 注3）の題名に見られるように、英語の省略語辞典で扱われる英語の代表的短縮法 (shortening) は、acronym（頭字語）、initialism（イニシャリズム）、abbreviation（省略）である。

短縮の伝統的方法である「省略」(abbreviation) による省略語 (abbreviated word) は、以前はピリオドを省略の印に置いた――U.S.A.；U.K.等――が、最近はピリオドを省略する――US；UK；ROK (< Republic of Korea) 等――のほうが多い。このため、発音の可否を基準にして①acronym「頭字語」と②initialism「イニシャリズム」を分けて独立させ、その他の「省略語」を③clipping「短縮」に分類する方式を採用した。

①acronym（頭字語）は、頭文字あるいは複合語の部分をつなぎ合わせてできる語で、単語のように発音が可能なものをいう。例に見るとおり、*L*aser-*A*ssisted in *Si*tu *K*eratomileusis の頭文字 L, A, S, I, K をつなげて LASIK とつづり、［léisik］と、一語のように発音できるものを指す。noc は［nɔk］と発音される。

②initialism（イニシャリズム）は、頭文字をつなげて1語につづるが、一字一字を発音する。

発音するとき、2文字の語は、両方ともに第一強勢で発音する。EU は［íːjúː］3文字の語は、第1字と第3字（最後）に第一強勢が来るが、第2字には第二強勢を置く。ECU は［íːsìːjúː］しかし4文字のときは、第1字と第4字（最後）に第一強勢が置かれ、第2字、第3字には強勢を置かない。PTSD は［píːtiːesdíː］

European Currency Unit の ECU は［íːsìːjúː］といえるが、テレビやラジオでは普通［ékjuː］や［éikuː］と聞こえる。1語のように聞こえたほうが貨幣単位としてわかりやすいであろう。

③clipping（短縮）の中には、例の e-site のように electronic の先頭 e-だけを残したものと、Wi-Fi のようにそれぞれ Wireless と Fidelity の先頭2字（～数文字）ずつを残して切り取ったものがある。

D-word のように先頭の文字が大文字に変わった“X-word”型のものは、婉曲表現 (euphemism) として

用いられることが多い。ガンの告知が恐れられていた時代は、cancer の c を大文字にして、"big C"と言った。「景気後退」が長続きした日本経済の話をするときは"R-word" (recession) がささやかれた。

なお、e-と結びついた e-words については、「"e-words"から検証するグローバリズム」(須永、2003. 注 4) に詳述した。

tele-＋phone の派生語 telephone を clipping すると、前置連結形を落として phone となったが、日本では普通、tel. が使われている。

新語の語形成の短縮傾向を概観するため新たに採用した造語法は、以下の 3 種である。

④ blending (混交) は、複合 (compounding) のときに、前置要素 (prepositive element) の音または字と後置要素 (postpositive element) の音または字の重なりが見られるものをいう。つづり字が同じで発音も同じもの、つづり字が異なっても発音が同じものがともに許容される。前者は、Birdzilla (Bird＋godzilla) の-d-と BusHitler (Bush＋Hitler) の-h-の例、後者は、freakonomics (freak＋economics) の-k と-c-、EUtopia (EURO＋utopia) の Eu-と-u-の例である。freakonomics では音素の/k/が、EUtopia では [ju:] の発音が重なる。このような単音または音結合の音的要素 phonogram (表音文字) が介在する。Phonogram は音の同化 (assimilation) に貢献する。また、第 1 要素の語と第 2 要素の語のシラブル (syllable) の数がかなり減るので、リズムがとりやすくなり言いやすくなる。phonogram が介在しない複合語は、clipped compound という。後出3—3. の解説を参照。

blending を語形成として解説したのは、*The Second Barnhart Dictionary of New English* (1980. 注 5) であった。

⑤ derivation (派生) の接頭辞と前置連結形はギリシャ語やラテン語の単語または短縮形を用いている。Euro-sclerosis は、Euros からの Euro-を用いた。同様に、接尾辞と後置連結形はギリシャ語、ラテン語の単語または短縮形である。low-tech は technology の語尾を落とした tech を付けた。high-tech(nology) から逆に手作りへと戻す考えを示す。bio-, Euro-等の前置連結形の語尾 linking vowel -o-が特徴的である。(注 6)

⑥ text messaging (テキストメッセージ化) は、かつての電信文で用いた暗号化と似ている。textbooks では母音を落として txtbks とし、AFAIK では as far as I know を Initialism の手法で処理した。携帯メイルや E-mail でのやり取りに便利な通信法として、特に若者の間で受け入れられている。

3．各分野別短縮語

以下に、各分野で生まれた新語の短縮の実例を選んで、造語法を提示する。

3.1. 科学研究、学術研究の領域の学際・融合化、コンピューター技術：derivation, initialism, clipping

bio-chemical, bio-mass

cyber security, cyberspace

e-mail, e-site *or* esite, e-dress (＝e-address), e-Review (digital weather forecast)

geo-politics

CRD (*Computer-Readable Database*), CSR (*Computer Science Resources*)

(有機) EL (organic electro-luminescence 有機発光ダイオード)

この分野の新語は、研究の学際化を示すほか、発明、発見、新技術、その製品を命名する際に、よくギリシャ語やラテン語が用いられる。New Latin と呼ばれる用法である。

CRD や CSR のような資料書目の initialism は、"source code" である。

3.2. 医学／薬学／病理学の専門用語の簡略化——：acronym, initialism, derivation

SARS (severe acute respiratory syndrome 重症急性呼吸器症候群)

SAS (sleep apnea syndrome 睡眠時無呼吸症候群)
AED (automatic external defibrillator 自動式体外式除細動器)
EMDR (Eye Movement Desensitization and Reprocessing)
MPS (maternal placental syndrome)
PRK (photorefractive keratectomy)
PTSD (post-traumatic stress disorder 外傷性ストレス障害)
hyperlipidemia (高脂血症)
paramedic (准医療従事者)

医学、病理学は命名に詳細な情報を入れるため、数語にわたるから、専門語は acronym と initialism による短縮が多い。また、上記の例に見られるように、syndrome を含む病名が多い。「社会と文化の諸相を映す"syndrome"語の語形成について」(須永、2001年. 注7) を参照。

3.3. 政治・軍事・経済現象の即解志向：acronym, initialism, blending, derivation, clipping, clipping compounding

ALOHA (Aboriginal Lands of Hawaiian Ancestry)
BRICs (Brazil, Russia, India, China (market)s)
MBS (mortgage-backed security 抵当証書担保付証券)
SPA (specialty store retailor of private label apparel 製造小売業)
IP (Internet Protocol), IP (Intellectual Property 知的財産)
MFPs (multifunctional printers, products, or peripherals)
FOB (Friend of Bill Clinton)
MOT (Management of Technology)
NEET (Not in Employnment, Education, or Training ニート、無業者)
FW-style (Veterans of Foreign Wars 米国の海外派遣戦没者)
W3C (World Wide Web Consortium) ＊発音が変化する
cosmeceuticals (cosmetics＋pharmaceuticals)
Cyber-elite (インターネットで成功したベンチャービジネスの投資家。起業家ではない)
e-company, e-resume, e-supplier (インターネット・サプリメント販売業)
ecospeak, eco-friendly
diplolingo
masslux
neuroeconomics
Petro-politics
Jordan, CN Easongate (Eason N), Enrongate, Marthagate (Martha Stewart)
Globish (Glob(al)＋(Eng)lish)
Iraqistan
Islamofascism
Scams'R'us (国連イラン石油・食料交換計画) Cf. Toys'R'Us
D word (deflation), L word (Liberal), O-word (oil), R-word (recession), S-word (public service)
N-bill (見出し語。a bill to normalize Vietnam trade)

3—2. と同様、長い命名が多いため、短縮が求められる。

～word は、*Jargon——Its Uses and Abuses* (Nash. 1999) の見出し項目"X-words"に、C-word (Cancer)/F-word (Federal)/H-word (hostage)/S-word (subsidiary)が掲載されている。

ecospeak 等の-speak 語については、「新語の語形成(1)——-speak 語をめぐって——」(須永．1993．注8）を参照ください。Easongate/Enrongate/Marthagate は最新の新語であるが、-gate 語全般に関しては、「-gate 語の系譜の研究——Watergate (1972) から Indogate (1996) まで——」(須永．1997．注9）を参照。cosmeceuticals (cosmetics+pharmaceuticals)は、blend (混交語) とは言えず、clipped compound (短縮複合語) とするべきであろう。

3.4. 社会・文化現象のゲーム性，グラフ化：derivation, initialism, blending, clipping compounding

acrotropolis (空港都市)

info-bot, spy-bot, chat (ter)-bot, lobo-soldier

computerholic, crediholic [cardholic]

chicken-lit (children's literature), mobi-lit (mobile phones literature), street-lit

Bollywood (Munbai (=Bombay) Hollywood), Eurowood (Euro(pean) Hollywood)

mass-tige (mass and prestige market)

BB2 (babyboomers2 第2次ベビーブーム世代)

M2M (machine-to-machine communications) * text message

GNH (gross national happiness)

Coca-colonization (Coca-Cola+colonization)

computerholic, crediholic [cardholic] に関しては、「新語の語形成について——新語の接尾辞・後置連結形にみる negativeness——」(須永．1991．注10)の-aholic 語の項を参照。info-bot, spy-bot, chat(ter)-bot に関しては、「コンピューター用語"*bot*"語の研究」(須永．2005．注11) を参照。

4．言語学的考察

以上のデータと観察から、新語語形成の短縮傾向に関して以下のような観測が導かれた。

(1) 頭文字を利用した短縮法には、acronym と initialism と clipping がある。

(2) 複合語の短縮法では、blend と clipping compound が生まれるが、blending が主流である。その理由は、シラブルの減少と phonogram (表音文字) などにより、リズム、イントネーションが整い、音韻上有利な結果が得られる。Prosodic morphology の視点からも研究する必要を認識した。今後その分野の研究を取り入れたい。

(3) 科学研究・技術・製品の分野では、ギリシャ語やラテン語由来の接辞や連結形が用いられる"New Latin"の傾向から derivatives が多い。新製品の命名に acronym と blending が多用されるのは、覚えやすさとリズム感からである。

(4) 医療の分野では、複合的「症候群」(syndrome) の増加に伴って、acronym と initialism が多い。診察、診療、手術などもっとも速度が要求される現場への対応ゆえである。

(5) 政治・経済等の分野では、情報交換の促進や情報管理のため、言葉の節約 (economy of words) が必要で、言葉の再コード化 (re-encoding) が求められている。Acronyms, initialisms, derivatives, clipped words, clipped compouonds, いずれも多産である。

(6) 婉曲表現に、acronym や initialism や clipped compound が使われる。たとえば、noc (non-official cover 非公式諜報員)。D-word (deflation), F-word (failure), R-word(recession), S-word (public service)などの X-words は、時代のキーワードを言い易く、あるいは婉曲に表現するため、流行語になることもある。

(7) E-mail やケイタイ電話の i-mode 等による e-lingo と idiolects と text message の普及が著しくなりつつある。"Gr8 Bks in 120 Chrctrs or Lss"(注12)は、"Great Books in 120 Characters or Less"の text message である。Text message (TM) は initialism を取り入れている。

結論：短縮という機能は、現代社会の成員が、活動の場で、的確に順応するために必要な条件を調えるべく、コミュニケーションの手段であることばを確保する re-encoding の知的反応である。

注：

1．Gramley, Stephen. *The Vocabulary of World English*. London：Arnold Publishers, 2001. p. 91.
2．須永紫乃生著"Word-Formation Patterns of New English."堀内克明編『新聞雑誌を読むための最新時事英語辞典』。旺文社出版。1982．pp. 483—494.
3．Mossman, Jennifer, ed. *Acronyms, Initialisms & Abbreviations Dictionary* (*AIAD*). 16th Ed. 3 Vols. Gale Research Inc. 1992.
Bonk, Mary Rose, ed. *New Acronyms, Initialisms & Abbreviations* (*NAIA*). 20th Ed. Vol. 2. Gale Research Inc.1996.
4．須永紫乃生著「"e- words"から検証するグローバリズム」駒沢女子短期大学『研究紀要』第37号。2004．pp. 23—35.
5．*The Second Barnhart Dictionary of New English*. Barnhart, Clarence L., et al. eds. New York：Clarence L. Barnhart, Inc. 1980.
6．Bauer, Laurie. *English Word-formation*. Cambridge：Cambridge University Press. 1983.
7．須永紫乃生著「社会と文化の諸相を映す"Syndrome"語の語形成について」駒沢女子大学『研究紀要』第8号。2001．pp. 183—207.
8．須永紫乃生著「新語の語形成(1)——speak 語をめぐって——」駒沢女子短期大学『研究紀要』第26号。1993．pp. 81—87.
9．須永紫乃生著「*-gate* 語の系譜の研究——Watergate (1972) から Indogate (1996) まで——」駒沢女子短期大学『研究紀要』第30号。1997．pp. 57—71.
10．須永紫乃生著「新語の語形成について——新語の接尾辞・後置連結形にみる negativeness——」日本時事英語学会『時事英語学研究』第22号。1991．pp. 11—15.
11．須永紫乃生著「コンピューター用語"bot"語の研究」駒沢女子短期大学『研究紀要』第38号。2005．pp. 41—57.
12．See：the Headline of "The Washington Post OUTLOOK," *The Daily Yomiuri*, Nov. 30, 2005.

References

Bauer, Laurie. *Morphological Productivity*. Cambridge University Press. 2001.

Botha, Rudolf. *Morphological Mechanisms*. Pergamon Press. 1984.

Da Sola, Ralph. *Abbrreviations Dictionary*. 8th Ed. Florida：CRC Press, Inc. 1992.

Downing, Laura J. Canonical Forms in Prosodic Morphology. "Oxford Studies in Theoretical Linguistics". Oxford University Press. 2006.

Dressler, Wolfgang U. *Contemporary Morphology*. "Trends in Linguistics：Studies and Monographs 49." Mouton de Gruyter. 1990.

Gramley, Stephen. *The Vocabulary of World English*. London：Arnold Publishers, 2001.

Green, Jonathan. *Neologisms*：*New Words since* 1960. London：Bloombury Publishing Ltd. 1991.

Hill, Jane H. "Linguistics：The Cambridge Survey Vol. IV. Language：The Socio-Cultural Context" Newmeyer, Frederick J., ed. 1988；1995.

Kastovsky, Dieter. "10 Word-Formation[1] A functional view," *MORPHOLOGY Critical Concepts in Linguistics*, Vol I Word Structure：A Variety of Views. Katamba Francis, ed. London and New York：Routledge. 2004.

Lieber, Rochelle. *Morphology and Lexical Semantics*. Cambridge university Press. 2004.
Nash, Walter *G. Jargon——Its Uses and Abuses*. Cambridge, Mass.：Blackwell. 1993/9.

謝辞

本稿執筆にあたって、日本時事英語学会新語・語法研究分科会の会員の方々、英文 Abstract の校閲をしてくださった駒沢女子大学 Linda Miyashita 助教授に深く感謝申し上げる。